

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			中庭、2階も利用出来、適切である。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		体の動きの調節が難しい利用児に対しては段差が多いが、玄関での靴の履き替えは椅子を用意して対応している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			人事考課にて個々に目標設定と振り返りをしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			年度の前半に実施。その年中に工夫・改善していけるようにしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			保護者等向けの評価表(保護者アンケート)を真摯に受け止め、業務改善を進めている。 第三者による外部評価は実施していないが、評議員会、理事会を機能させるとともに、リスクマネジメントについて法人全体の第三者委員会が行われている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			児童グループでの事例検討会を実施している。 他に、困ったり悩んだりした時には、法人の経験のある職員にスーパーバイザーをお願いをし、ケース会議等を行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			前期、後期の年2回、個別面談を行い、家庭での様子や事業所での様子など話し合う機会を設けている。また、支援計画を作成し配布してからより深く支援の方法を確認している。コロナ禍での対応で書類のやり取りのみ実施させて頂いていたが、今年度後期は面談の希望がある方へ実施していく。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			法人内共通フェイスシートを使用。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			今年度もコロナ禍での自粛活動が続き外出活動が難しい現状ではあるが、毎週の1日活動ではメニューを工夫して案を出し合い企画している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			共通の活動プログラムでも、個々の過ごし方、寄り添い方、課題など細かな点を意識して寄り添っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			集団での一斉活動を意識して「始まりの会」を実施。また、ボール遊びや音楽遊びを通し「皆で同じ」活動を楽しんだり、個々でチャレンジ出来るように設定をして成功体験を積めるように工夫している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			午前中に詳しく振り返りと打ち合わせを実行している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			終了後は送りと清掃(消毒)で勤務時間いっぱいです。メールを使っての情報共有をその日のうちに行い、次の日に詳細を共有するようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			管理者・児発管が記録を読み返し、補足したり書くポイントを確認している。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			定期的に相談支援員さんとのモニタリングを実施している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			主に管理者・児発管が出席するようにしている。勉強の為職員と一緒に参加させて頂く会議もある。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			FAX を使って1週間の利用者名簿を学校へ送っている。学校お迎え時に先生から引き継ぎがある。トラブル発生時こそ引き継ぎが大切だと感じているが、この頃「個人情報なので」と理由で知らせて頂けない事があるので、積極的にこちらから聞くようにしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○	医療的ケアが必要な子どもの受け入れは難しい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			法人内事業所とは密に連携が取れている。直接保育所等通園施設との連携はないが、相談支援員との連携は密に取れている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			法人内事業所とは積極的に情報の共有をしている。活動プログラムの中に、お仕事体験デイを取り入れたり、成人事業所職員の特技を活かしたプログラムを企画し連携をし、卒業前から事業所間で情報を共有している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			法人内事業所とは密に連携が取れているが専門機関との連携はない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	子ども同士の活動機会はないが、事例検討会を通して先生方と共通のテーマで話し合っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			柏市のこども部会等に参加し、関係情報の入手や関係事業者との交流、情報共有を行っている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			送迎の際、保護者と直接お話をしたり、連絡帳を通して情報のやり取りをしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			事例検討会を開催し、保護者も一緒に参加し勉強出来るような企画をしている。会を重ねる度保護者の参加が増えてきている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			個別面談や保護者会を行っている。また保護者からの質問があれば電話対応等で迅速に行っている。今年度も引き続きコロナ対策の為保護者会は中止、重要事項の説明は書類を手渡しと郵送にて交わした。後期の支援計画での面談は対面で希望者の方へ実施する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			連絡帳を通しての相談や電話での相談など、その都度応じている。また普段から「話しやすい事業所」を意識して取り組んでいる。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			保護者会や事例検討会では、積極的に保護者をお誘いしてきっかけ作りをしている。法人内交流だけでなく地域の事業所また関連保護者との交流も意識している。

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			ヒヤリハット報告書や事故報告書、または直接メールや口頭で理事長に報告している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月、活動の様子を通信などで発信している。	
	35	個人情報に十分注意しているか	○				
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			子ども一人一人の意思伝達手段を尊重し、自己決定ができるよう配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		法人としてイベントを多く開催しており、地域の方と関わる機会となっている。また、ポスターを貼るなど事業所を通して案内をしている。	
	非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			法人内でマニュアルに沿い実施中。
		39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			大型地震等の自然災害発生時における業務継続計画(BCP)に基づき、年に1回法人の避難訓練に参加。毎月第4週目の各曜日に、利用児参加の避難訓練を計画し実施している。
40		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			法人として、WITH US 施設長を虐待解決責任者、各事業所の管理者等を虐待防止受付担当者とする虐待防止委員会を、管理者等の会議である戦略会議において開催している。 事業所では、虐待防止受付担当者をもとに、法人の虐待防止委員会の議事の伝達、並びに各種研修参加者による伝達研修を実施するなど、虐待に対する意識を向けられるようにしている。また日々職員同士で振り返りをして話が出来た環境作りを心掛けている。	
41		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			身体拘束は至ることはこれまでにないが、児の生命にかかわる事が予想される児を受け入れる場合は、支援計画に記載し保護者の同意を得ることとしている。	
42		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			保護者と連携をし細かな様子を報告しあいながら対応している。また服薬の必要がある場合は、医師からの指示書を提出してもらっている。	
43		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハット・事故があった際には、職員全体で書確認し、情報共有をしている。	